

ユニバーサルサービス政策委員会 ヒアリング回答

ソフトバンク株式会社

2022/6/27

ヒアリング項目① IP網への移行期間中に適用するLRICモデルについて

1. IP網への移行期間中(令和4年4月~令和6年 12月)における補填額の算定に、どのようにLRICモデルを適用すべきと考えるか。

例えば、接続料算定に用いるモデルと同一のLRICモデルを用いて補填額を算定するというこれまでの整理を踏襲し、IP網への移行期間中という過渡的な期間に限り適用することも踏まえると、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値を補填額とする方法が考えられるところ。当該方法を含め、IP網への移行期間中の補填額算定へのLRICモデルの適用方法についてどのように考えるか。

弊社の考え

- 長期増分費用モデルは、現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備と技術でネットワーク（アクセス網、コアネットワーク網）を新たに構築した場合の費用を算定するものであることから、補填額の算定には、引き続き非効率性を排除した長期増分費用モデルを適用することが適当と考えます。
- ネットワーク全体として最も低廉で効率的な設備配置となるようモデルが策定されることを踏まえると、同期間において、アクセス網とコアネットワーク網に異なるモデルが適用されることは整合性に欠けるものと考えます。
- 以上を踏まえると、IP網への移行期間中における補填額の算定には、同期間の接続料算定と同一のモデル（第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値）を用いることが適当と考えます。

ヒアリング項目② 第9次IPモデル適用時にモデル外補正を行うことについて

2. 第9次IP-LRICモデルを補填額算定に適用する場合、その適用方法についてどのように考えるか。

第9次IP-LRICモデルについては、アクセス網の設備配置ロジックの一部が十分に効率的な設備配置を行えるものとなっていないことから、今後ロジックの改善を図りつつ、当座の補填額の算定に第9次IP-LRICモデルを適用する場合には、アクセス網の設備配置が十分に効率的な設備配置に近付くようにモデル外での補正を行った上でモデルを適用することが、長期増分費用モデル研究会での検討の中で提案されている。

当該提案も踏まえ、第9次IP-LRICモデルを補填額算定に適用する場合、その適用方法についてどのように考えるか。

弊社の考え

- 第9次IP-LRICモデルは、アクセス網の設備配置ロジックの一部が十分に効率的な設備配置を行えるものとなっていないことから、**モデルをそのまま適用することは適当ではなく、補正を加える必要がある**と考えます。
- 上記の課題を解消するためには、本来モデルのロジックを改修すべきと考えますが、これには一定の時間を要することが想定されるため、引き続き次期モデルにおいて検討することとし、当座の補填額算定においては**簡易的にモデル外での補正を実施**することが現実的であると考えます。
- 仮に第9次IP-LRICモデルをそのまま適用する場合、NTT東西殿の実網での設置台数を大幅に超える台数が設置されることとなりますが、それを**補正するための有効なデータがない状況においては、長期増分費用モデル研究会で提案されたNTT東西殿の実網での設備設置を参考にすることは、今回に限り、最低限の補正措置として取り得る選択肢**であると考えます。